

神戸YMCA学院専門学校
2024年度 自己点検・評価表

1.学校の教育目標

公益財団法人 神戸YMCAはキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神をやしなひ、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。（「公益財団法人 神戸YMCA 定款」より抜粋）

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することをめざします。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ホテル学科>

ホテルスタッフ養成機関としての役割を維持しつつ、多様化する社会環境に合わせて、観光都市神戸の中でブライダル業界、ツーリズム業界との関係を強化し、就職先の拡大を目指していきます。また、学生の募集広報の強化を推進していきます。（2024年度の目標）

<日本語学科>

留学生が日本語学習に励むことができるよう、学習環境、学校環境を整えて運営を実施していきます。そのために、多様化する学生のニーズに合わせた進路指導（就職支援）、教育プログラムや学外活動の機会をより多い提供します。日本語教育機関認定法の改訂による勉強会の実施、カリキュラム編成等のタスクチームを立ち上げ、2025年度に申請できるよう取り組みを始める。（2024年度目標）

3.評価項目の達成及び取組状況

【評価基準 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切】

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか	4	3	2	1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいっているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・神戸YMCA VISION2030に向けた学校教育事業の3か年計画を着実に進めていっている。
- ・全講師対象とする教育研修会の実施や学科内の情報交換会を実施するなど、学びの機会と教員によるケーススタディの場を設けることができた。
- ・日本語学科では、152名の学生を受け入れることができた。
- ・ホテル学科では、ホテル観光業界への就職は順調に進み、2年生は全員就職することができた。大阪万博（2025）に向けて関西ではホテルが集中的に建設されているため引き続き人材は必要とされている。
- ・ホテル学科の広報活動の強化が実り、オープンキャンパスの来校者数の獲得、入学者数

も 37 名と今年度の目標を達成することができた。

② 次年度における改善策（具体的な計画）

- ・日本語学科の認定校申請作業が急務であり、計画的な作業が求められる 1 年となる。
- ・ホテル学科は、高校生へのアプローチ、日本語学校との連携をさらに強化し募集広報に注力していく。
- ・学校としての情報公開を行いつつ、学校教育事業の中期計画に沿って推進していく。

③ 特記事項：（補足事項）

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・設置団体は学校運営者として適切な団体であるか	4	3	2	1
・目標達成に向けた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・事業計画にしたがって教育活動が実施されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	4	3	2	1
・基本計画に従った予算執行が適切になされているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか。	4	3	2	1
・留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。	4	3	2	1
・授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか。	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・教員変更に伴い、法務省への届出を行った。（日本語学科）
- ・職員体制の充実を図り、増員を行った。
- ・ホテル学科のホームページリニューアルを行った。

② 次年度における改善策（具体的な計画）

- ・次年度も更なる職員体制の充実化を図り、新たな体制でより安定した効率的な学校運営を目指す。
- ・ホテル学科：新入生について、今年度までに比べて留学生が大幅に増加するため、留学生のための事務組織を強化する。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育（実習等）が体系的に位置づけられているか。	ホテル)	4	3	2	1
・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・外部関係者からの評価を取り入れているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる能力経験を備えた教育を確保しているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	ホテル)	4	3	2	1
・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：学校創立 60 周年記念式典を開催し、卒業生やホテルとの関係をさらに密にした。本校教育活動についてますます理解を得ることができた。
- ・日本語学科：日本語教育機関認定に向け、新しいカリキュラムの作成を進めている。
- ・両学科：教職員研修を実施した。

② 次年度における改善策（具体的な計画）

- ・日本語学科：日本語教育機関認定申請に向け着実に準備を進める。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・進路指導の向上と進学率のアップに向けての取り組みがなされているか。	日本語)	4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：2年生の就職状況・・・6名が就職内定。1名は海外留学準備。
- ・ホテル学科：年2回の長期実習を、滞りなく実施。
- ・日本語学科：進学（大学院、大学、専門学校）50名、就職14名、帰国10名。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：実習や就職における個別対応を丁寧に実施していく。とくに次年度は留学生が大幅に増えるため、管理システムを構築する。
- ・日本語学科：資格取得のための授業を継続実施する。

③ 特記事項

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。		4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1

	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ワイズメンズクラブやコープこうべ等の団体から、食料品や生活物資の寄贈を受け、留学生や下宿生を対象に寄贈品の提供を行った。
- ・カウンセラーによる、学生相談や、学生対応のためのコンサルティングを実施した。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・次年度も関係各位へ支援要請をして、学生たちへの物資支援を行っていく。
- ・次年度も、カウンセラーによる、学生相談や学生対応のためのコンサルティングを実施し、学生の健康面・精神面をこれまで以上にケアする。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、				
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか	4	3	2	1	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	ホテル)	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1	

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：ホテル実習や海外研修の機会を提供している。今年度は、アメリカ・フロストバレーYMCAでの夏期実習を実施した。
- ・両学科：年2回の消防訓練を実施している。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：より現場に近く、深い学びのために、さらに教員、ホテル、関係各位との関係性を強める。
- ・日本語学科：学生数にあった教員体制を整え、授業及び課外活動等のプログラムを予定通り実施する。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(7) 学生募集活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確につたえられているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学費等の学生納付金は適切なものとなっているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・海外の募集代理人（AG）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか。	日本語)	4	3	2	1
・入学選考基準及び方法が明確化されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：オープンキャンパスで模擬授業を毎回実施し、内容を充実させた。
- ・ホテル学科：県外の高校へ指定校推薦案内をし、学校訪問を実施した。県外からの新入生が増えてきた。
- ・ホテル学科：留学生入試の入学条件を以前のかたちに戻し、そのことを日本語学校訪問で案内告知した結果、多くの留学生を獲得できた。
- ・日本語学科：リスティング広告を行い、新たな AG との交渉をして学生紹介を受けている。

② 次年度における改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：ホームページを充実させる。
- ・日本語学科：リスティング広告を継続させ、より HP への訪問者を増加させて、学校の認知を得ることに取り組み、引き続き口コミ紹介を誘引することを狙う。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・日本語学科は、秋期152名となり学生数は回復傾向にあるが、ホテル学科の新入生8名には苦戦をし予算にも影響した。

- ② 次年度における改善策（具体的な計画）
- ・ホテル学科のホームページ改訂が必要なためより綿密な予算計画が必要。
 - ・年度途中の退学者が多いため返金規定の見直しを行う。
- ③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	兵庫県)	4	3	2	1
	法務省)	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点改善を行っているか		4	3	2	1
・関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか		4	3	2	1

- ① 今年度の評価（実施できたこと）
- ・法務省へ、定期報告と教員変更届けを提出した。
- ② 次年度における改善策（具体的な計画）
- ・引き続き継続する。
 - ・日本語学校認定校改訂に合わせて学則変更を検討する。
- ③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）
- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか。		4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか		4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか		4	3	2	1

- ① 今年度の評価（実施できたこと）
- ・秋祭りやYMCAの学童保育施設でボランティア活動等、年間を通して30名以上の学生が地域ボランティアとして活動を行うことができた。
- ② 次年度における改善策（具体的な計画）
- ・継続して、実施をしていく。
- ③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）
- ・特になし

(11) 留学生の入国在留支援について

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・留学生の受入れについて、戦略をもって行っているか	4	3	2	1
・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集、適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・日本語学科を中心に、国の入国審査や施策を確認し、適切な対応を行ってきた。
- ・入国管理局による学校調査が実施されたが、特に指摘を受けることなく適切な運営ができていたことが確認することができた。
- ・留学生に対し、ホームルームにおいて、生活状況調査を定期的に行い、学生の状況の変更等の把握に努めた。
- ・関係省庁、入国管理局等の HP や県からの通達など、その内容を踏まえながら、関係団体の情報、協働する日本の YMCA の留学生事業、および海外の YMCA やエージェントからの情報も得ている。

次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・引き続き、正確な情報を関係省庁、団体から得て、適切な手続きを行っていく。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

4.学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

本校はホテル学科創立 60 周年を迎え、日本語学科も 2024 年度から日本語教育機関認定法制定により日本語教員資格の格上げ、認定校への移行期間が始まり専門学校としての節目を迎える年であった。歴史のある学校を時代に適応させること、人材の確保と育成、ユースのニーズにあった教育活動や募集広報の強化、学生に合わせた多様な指導等の教育的活動を目指していました。

ホテル学科に関しては、前年度から強化してきた校名周知等の活動や SNS の活用等行い年間を通してオープンキャンパスへの来校者数の増員、日本人、留学生共に募集要項の全面改訂を行ったことにより、出願者の増員に繋げることができました。定員を若干未達ではあるが、次年度の新入生を 37 名受け入れることができるようになりました。在校生に関しては、安定的に企業実習への派遣、今年は 7 年ぶりに海外実習派遣も再開しました。求人募集情報も常時届き、学生の就職活動も順調に進めることができました。

日本語学科に関しては、所属する日本語講師がよりスムーズに登録日本語教員資格を取得できるように定期的な情報提供や勉強会を実施しました。初年度であったものの多くの講師が資格を取得することができました。引き続き、計画的に日本語教員への登録支援を行っていきます。認定校申請に向けては、タスクチームを立ち上げ準備を進める一年となりました。2025 年度に申請できるよう引き続き準備を進めていきます。募集広報においては、減少傾向にあった中国からの問い合わせが増加し、留学生の動向については引き続き注視していきます。在校生における進学も大学院、大学、専門学校、就職といいバランスで指導を行うことができました。